

第2回 スマート・エコパークに関する検討会 議事要旨

日 時：平成26年12月5日（金）10:00～12:00

場 所：経済産業省別館6階第1会議室

出席者：中村委員（座長）、大木委員、白井委員、新関委員代理（鈴木委員代理出席）、二瓶委員代理（長谷川委員代理出席）、黒田委員代理（松本委員代理出席）、山本委員、星野委員、深瀬委員、戸高委員、豊島委員

議題：1. 先進的リサイクル事業における検討の視点
2. 先進的リサイクル事業に関する情報提供
3. 宮城県・岩手県の震災廃棄物処理の俯瞰と福島県への展開

議事概要：

（1）先進的リサイクル事業における検討の視点
リサイクル事業が成立するための条件など、今後先進的リサイクル事業を検討していく際に踏まえるべき視点を大木委員より説明。

（2）先進的リサイクル事業に関する情報提供
太陽光パネルのリサイクルに向けた取組の現状等についてガラス再資源化協会より説明。繊維製品や携帯電話のリサイクルに向けた取組等について日本環境設計株式会社より説明。

（3）宮城県・岩手県の震災廃棄物処理の俯瞰と福島県への展開
両県での震災廃棄物処理の仕組みと福島県への展開可能性について、がれき処理コンソーシアム（東北大学 久田教授）より説明。

（4）委員等からの主な意見は以下のとおり。

- ・ 先進的リサイクル事業が成立するためには、貴金属やレアメタル等の有価性の高い資源が多く回収でき、資源循環率を上げられるかの観点が重要。
- ・ 太陽光パネル等のガラスはほとんど廃棄されており、リサイクルの可能性を検討する余地はあるが、技術の問題以上に、ガラス再資源化商品の利用に関する社会的コンセンサス（ユーザーの理解）を得られるかがより重要。
- ・ リサイクル事業で収益を出すには、（物流コスト等の観点から）どの地域でどれぐらいの廃棄物が発生し、どこで回収して処理するかという視点や、動脈物流（製品の製造・販売等に関する物流）との連携等による効率化の観点が重要。廃棄物処理法との整理にも留意する必要がある。
- ・ がれきから再生した資材の利用はユーザー側に抵抗感がある場合が多く、品質・価格の両面を踏まえた上で確たるニーズを想定できるのは公共事業ではないか。ドライビングフォースとして、どこでどう使っていきたいか県の方針があることが非常に重要。